入札提案書の審査が終わり第一次落札者は決まった。2020年6月に告知されたミャンマーでは最大激戦と言われる再生可能エネルギーに関する入札の焦点は落札企業が本当にプロジェクトを履行し入札で定められた厳しいスケジュール内で完成させられるかに移った。

AUTHOR

Edwin Vanderbruggen
Senior Partner

Edwin is one of Myanmar's most prominent foreign legal advisers and is widely recognized for his experience in power projects. He advises sponsors and lenders on the large majority of IPP projects in Myanmar, including LNG to Power, gas, solar, wind and HPP. He assists the Government, DFIs and IFI's on power projects, policy and reform, and helped draft a new Model PPA in 2018. He is known for actually getting things done and for his extensive regulatory knowledge.

我々はEPGE（電力発電公社）の1060MW太陽光発電入札から学んだことは。

入札提案書の審査が終わり第一次落札者は決まった。2020年6月に告示されたミャンマーでは最大激戦と言われる再生可能エネルギーに関する入札の焦点は落札企業が本当にプロジェクトを履行し入札で定められた厳しいスケジュール内で完成させられるかに移った。落札企業の国籍が話題になっている。最大は中国のSungrow Power SupplyとChina Machinery Engineering Corporationと報告されている。この点だけ見ると競争とは言えない。この入札の進め方、結果を検証してみたい。ミャンマー政府の入札（本件は該当外）を数多く担当した立場から、そして入札企業及び落札企業（今回の入札も含め）を支援した立場から。この入札は成功したのか。我々は何を学んだのか。

ハイライト（要点）

- 入札書作成の準備時間が本当に短かったのだろうか。
- 中国企業は政府から不公平なアドバンテージを受けていたのだろうか。
- 電気代はいくらであろうか。
- 果たして、プロジェクトは予定通り履行されるのか。
- 同様の入札が今後もあるのだろうか。従来のネゴベースの査定はあるのか

応札資料の作成準備期間は本当に短かったのだろうか。

RFP（提案依頼書）は5月18日に告示され、提案書は6月17日までの提出を要求した。その後、7月17日に延長された。155の提案書が提出された。EPGE（電力発電公社）は2020年9月4日（元々は8月2日であった）に技術評価を通過した入札者は108社であったことを発表した。提出された提案書の約3分の2である。

充分な数ではないとは言えない。30ヶ所の発電現場サイト、すなわち30案件のうち、27案件には全て２本以上の提案書が提出され、提案書がなかったのは1案件のみ。2案件は提案書が1本であった。EPGEは30案件で27案件は競争条件を獲得できた。成功したと言える。

30MW或いは40MW規模の太陽光発電案件の入札提案書を準備する期間としては、いかなる状況であっても、1ヶ月或いは2ヶ月は短すぎる。短期の提出期限でRFPを告示したEPGEは特定の支援者から信用を失ったと思う。それほど大変と思わなかっ

た入札者もいるであろう。特に技術面では。不合理な点もあったと思う。例えばコロナパンデミックスによる移動制限下においてのサイト候補地の取得とか書類の原本提出の要求など。このようなことがEPGEの評判に傷を付けたと思われる。しかし全ての入札者に言えることではない。EPGEがターゲットにしたのは全ての入札者ではない。対象にしたグループは何ヶ月も前から案件をいろんな角度から準備してきた。何年もの間、EPGEは今回の入札に含まれる地域、マグウエイ、マンダレー、バゴー、サガインなどで太陽光発電案件を提案した出資者候補により包囲されていた。投資家は長年に亘りネピドー27番のビルに図面、レポート、計画書を持ち込んでいた。間違ってなければ、恐らく、大きな投資集団の存在があり、彼らは既存の提案書を今回のRFP条件に書き換えるために必要なリソースを所有しているとEPGEが想定したとしても不思議ではない。しかし、国際的にも全ての入札者からの評価を守るためにもEPGEは提案書提出期限を3ヶ月としておけば良かったと思われる。追加の1ヶ月は批判や懐疑論を避けるには安いコストである。しかし、EPGEの査定は間違ってはいなかった。結果として、155本もの提案書の提出があり、いくつかのサイトでは5本、7本、9本の提案書が提出され、成功裏に終わった。

中国企業は政府から不公平なアドバンテージを受けていたのだろうか。

落札企業の国籍が話題になっている。落札企業の殆どは中国企業とその関連の企業となった。それは意図的なものか或いは偶然なのか。政治的な意図があったとは思わない。数多くの政府入札に携わってきたが、そのようなことを見たことはない。中国企業間のリスク面、競争などの違いを審査した通常の商業的判断の結果であると思う。増加する海外取引における企業の製造能力、それと中国は近隣国であること、長期に亘る両国の関係（西側諸国とは経済制裁のためにそれがない）そして、北京政府の国外案件支援政策を考慮したと思われる。

直接交渉はと言えば、政府は重要な案件を入札ではなく直接交渉を通して、欧州企業或いは日系企業と契約している。どこでも同じということならば、政府としては、世界の色んな場所から広くバランスよく投資家を募ることを好むことになる。太陽光発電入札での中国企業が独占したというのは、それは第一次勝者として承認された数多くの提案書作成に携わり、従来型の応札者よりも異なるリスク概念を持ち非常に競争力のある提案書を提出した結果と言える。

電気代はいくらであろか。

新聞報道によれば、今回の落札者平均電気料金は約4セントである。これは我々が関与した最近のカンボジアでの60MW太陽光発電国際入札に非常に近いものである。しかしながら、EPGEはカンボジアの電力発電公社（EDC）に比べて、より良い取引条件を得たと言える。何故なら、カンボジア案件では投資家は土地取得をする必要がない、すなわち土地代金の支払いがない。これはミャンマーと大きく異なる点だ。EDCは現地通貨ではなくUSドルで支払う。加えて、カンボジアの電気購入契約（PPA）は、恐らくミャンマーのそれに比べていろんな点で厳格なものと思われる。ミャンマーのPPAはそれほど悪くはないものだ。しかしながら、PPAは現在EPGEとの最終交渉が進められている。EPGEは恐らくベトナム電力発電公社（EVN）のそれよりは安くなるであろう。EVNの2020年の太陽光発電料金は7セントを少し超えたところだ。

果たして、プロジェクトは予定通り履行されるのか。

RFPで最も多かった批判の1つに無謀な建設計画がある。すなわちプロジェクト承認から6ヶ月以内のCOD（電力供給日）である。この6ヶ月間で事業者はPPA交渉を終わらせる必要がある。MICの承認取得、土地の使用目的変更手続き、もちろん事務所の設立もある。土地タイプの変更はプロジェクト遂行上で一番大きな障害物である。特にその土地が農地の場合は。土地の用途変更手続きは常識的な時間では進まない。例外的な方法と近道を駆使する必要がある。土地法或いは少なくとも現在適用されている方法はプロジェクト開発の要件と親和性がない。

通常の状態であっても上記のことを全

て6ヶ月以内にやろうとすれば、ショートカットするしかない。それに今、ミャンマーは第2波のパンデミックスに襲われており政府事務所はスケルトン勤務の状態であり国内移動もできない状況となっている。不可抗力が沢山ある。PPAにより、これらのどれかがCODを遅らせることになろう。

全てのサイトではないにしても大方のプロジェクトはその事業者の失態は責められることなしにCODは延長されることになろう。当初よりその権利を見込んでいた人たちもいた。

同様の入札が今後もあるのだろうか。従来のネゴベースの査定はあるのか。

政府は明らかに競争入札を増やし直接承認方式を減らす方向に向かっている。この傾向はその方向に推し進める規制或いは法律により強化されていく。しかしながら、いくつかの重要案件は直接交渉という世界にあることは明らか。縮小しつつある役割と思われる。望ましくない直接交渉のインフラ案件がある。

今回の入札にはいくつかの欠陥があり、それらははっきり見えているし、そのいくつかは不要なものであった。しかし、ミャンマーで生活し仕事を始めた2012年以来、特にエネルギー分野では政府の入札の量と質は飛躍的に高まった。PPAドラフト付きの詳細なRFP、明瞭なパラメーター、規則集、プロセスをサポートする書類、政策作成者による明快な概要説明などは大幅に改良された。

最後に、この結果は自ずと出て来る。多くの応札と競争力のある電気料金。プディングの美味しさが明らかになろうとしている。ミャンマー太陽光発電プロジェクトを入札にするという高いリスクを投入ことが必要だったのか、持続性はあるのかを皆さんは正しく感じ取ることができると思う。市場原理には逆らえない。危険願望で競争相手を打ち負かすことができることを確信している。或いは諦めて別の居場所を探し始める。2012年以来今日までミャンマーで成長或いは諦めるか試行錯誤は続く。

エドウィン・ヴァンダーブルゲン

ウイデービーロイ法律事務所、シニア・パートナー

カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムのエネルギープロジェクトに精通。発電事業者及び政府関係省庁に対して、水力発電からLNG発電、再生可能エネルギーまで幅広い分野でのコンサルタルティングに従事。

RELATED ARTICLES

- NEW BATCH OF PROJECTS FED INTO THE PROJECT BANK
- MYANMAR SOLAR TENDER 2020: WHAT SHOULD HOPEFUL BIDDERS WATCH OUT FOR?
- VDB LOI CONNECTS BIDDERS WITH AVAILABLE LAND FOR SOLAR TENDER IN MYANMAR

DOWNLOAD

http://bit.ly/3276KA1

CONTACT

YANGON
Level 10, Unit 01-05, Junction City Office Tower,
Corner of Bogyoke Aung San Road and 27th Street,
Pabedan Township
T +951 9253752~756
F: +951 9253758

NAY PYI TAW
Nilar #2, Business Center, Park Royal Hotel Nay Pyi Taw,
Jade Villa no. 13/14 Hotel Zone,
Dekhina Thiri Township
T: +95 678 106089
F: +95 678 108 092